

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームメルヘン
(ユニット名)	憩いの園
所在地 (県・市町村名)	山形県東村山郡山辺町
記入者名 (管理者)	横山 晴子
記入日	平成 19年 7月 2日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスは、理念には出ていないが、地域への取り組みはなされている。	○	・地域密着に応じた理念を組み込む ・従来どおり、地域への働きかけを継続する
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を理解し、実践に取り組んでいる		理念を理解し、実践に取り組んでいる
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	取り組んでいる		小学校で行われている行事等に参加している(クリーン作戦や学芸会、運動会など)
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的なつきあいができるよう努めている		災害対策の備えとしても、近隣に協力体制がある
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	交流することに努めている	○	地域活動への参加は、今後も継続し、より多くの交流ができるよう支援していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者へ向けての取り組みはなされていない	○	・地域の高齢者に向けた取り組みを考えていく ・シルバー人材センターをうまく活用し、地域への交流を図る
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を生かして、改善に向けた取り組みを実践している		前回の評価の際、食事についての指摘があり、みんなで話し合い改善に努めた。現在は、利用者と職員が同じメニューを食べることができている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、グループホームについての話し合いや地域交流に関しての意見を聞くことができた。		今後も定期的に行い、意見を聞いてサービス向上につなげたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来するまでには至っていないが、話し合いを行なうように努めている。	○	今後は行き来する機会をつくるよう努めたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はないため、話し合いも行われていない	○	今後、検討していく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法についての学ぶ機会を持っていないが、職員は虐待についての防止には十分努めている	○	法についても学び、もっと深く理解していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		必ず話合う機会をつくり取り組んでいる 入居時、契約について十分な説明を家族に対して行っており、理解していただいている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		管理者や職員に対しては、意見や不満など思いを伝えられることができている。介護相談員が訪問に来てくれている。 今後も継続して行なっていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている		その都度、報告している 面接時や、定期的な電話で家族等に報告している
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		苦情相談窓口を設け対応している 相談の窓口を設けている。また、苦情がある際は、管理者・職員で話し合いをしっかりと行い、改善に努めている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている 今後も継続していく
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		必要な時間帯に職員が確保されている 必要な人数は確保されているが、最低限である
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている		利用者に対してのダメージが少ないよう、異動は最小限に抑えている 今後も継続していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会がもうけられている		法人内外の研修を受ける機会が十分にある。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行われている		市のグループホーム協議会主催の勉強会や、相互訪問の機会が定期的であり、参加している
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者や管理者は、職員と面接などおこない、日ごろからストレス軽減につとめている	○	ゆっくり休めるような空間づくりの工夫が必要である
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれの状況を把握している		個々に目標を定め、自己評価・上司の評価など行い、個々の努力や実績がみえるようになっている
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に際して、本人自身からよく聞く機会をつくっている		入居前に、相談担当者が本人を訪問し、困っていることや求めていることなど、本人自身からよく聞く機会をつくり受け止めている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に際して、本人同様に家族に対してもよく話しを聞く機会をつくっている		入居前に、相談担当者が上記同様に本人と家族に対しても話しを聞く機会をつくり受け止めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できている		相談時に、話しに対し必要な支援を見極め、当グループホームでの対応だけでなく、他のサービス利用も含めた対応も行っている
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	関係が築かれている		介護される・する関係でなく、必要に応じて利用者が主役になれる場面をつくり、職員が利用者から教えてもらい学ぶようにしている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	関係が築かれている		家族には、面会時など状況報告をすると共に、問題点などがあれば、随時相談し一緒に解決していく努力をしている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	より良い関係が築けるよう支援している		面会だけでなく、お盆や正月の帰省などを支援したり、行事への参加を呼びかけることで関係づくりに対して支援している
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れないよう支援している		面会の支援や、家族を通して馴染みの人や場所との関係がとぎれないようにしている
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりが孤立しないように工夫している		仲のいい利用者同士がよい関係を築けるように、席の配置や、小人数で一緒に過ごせる場所の確保などを行い支援している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了してしまうと、関係を断ち切っていることが多い	○	今後は利用者と一緒に訪問できるようにしていきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランにセンター方式を取り入れ、本人の気持ちシートを記入することで、一人ひとりの思いや暮らし方の希望などを把握するようつとめている		センター方式の気持ちシートを通して、一人ひとりの思いを感じ、日ごろのケアに生かしている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握している		・入居前に、家族に対して利用者本人の生活歴を聞き取りし、入居後のケアに生かしている。 ・入居後も、回想法などを通してこれまでの暮らしなどを利用者より聞く機会をつくっている
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの現状を把握するように努めている		観察や会話を通して、その人の状態を把握し病気の早期発見や認知症の進行状況などを把握するようにしている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画がつくられているが、職員だけで計画を作成してしまっている。が、計画は作成後に家族へ情報が提供されている	○	介護計画作成時は、職員だけでなく利用者や家族を含めた話し合いの機会をもち意見やアイデアを反映できるようにしていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の現状に応じた計画を作成している。が、上記同様に職員だけで作成してしまっている。	○	上記同様に職員だけでなく利用者や家族を含めた話し合いの機会をもち計画を作成したい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、一人ひとりの介護記録がきちんとなされている		介護記録がきちんと記入されている。他にも、一人ひとり認知の状況を記録し、みんなが現在の状況を把握できるよう工夫している。それを介護計画に生かせるようにしている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	地元の民生委員や消防の協力は得ているが、ボランティアの協力が不十分である	○	ボランティアに協力していただけるよう検討する
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	できていない	○	・地域のほかのケアマネジャーやサービス事業者と話し合いの機会をもつ。 ・必要に応じて、介護保険外も含めて他のサービス利用も検討してみる
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	できていない	○	今後の対応を検討してみる
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望を大切にしている		病状に応じて、他の専門の医療機関の受診が必要になった時は、医師や家族と連携をとり、本人および家族の希望を大切に支援にあたっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援している		認知症に詳しい医師と関係を築き、定期的に職員が相談し、利用者本人の状況に応じた診断や治療が受けられるよう支援している
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	支援している		ホーム内に看護職員がおり、利用者の健康状態を把握している。また、敷地内に医療機関があり、看護師とも信頼関係が築かれている
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時は、病院関係者との情報交換や相談に努めている		利用者の入院時は、まめに病院関係者や家族と連絡を取り、情報交換や相談に努めており、早期退院に、向けた取り組みがなされている
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、話し合いがなされていない	○	終末期のあり方について、本人や家族を交え話し合いの機会を持つ
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・終末期の対応は行っていない。 ・重度の利用者に対しては、早期から医師や家族と話し合いの機会をもち、今後の変化に備えて検討や整備を行っている	○	・終末期の対応について検討する ・重度の利用者に対しての支援はこれまでのを継続し取り組んでいくようにする
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時は、移動先のケア関係者に対して十分な情報提供を行っている		情報提供を十分におこない、住み替えによるダメージを少なく、利用者が安心して引き続き生活できるよう支援している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーがしっかり確保されている		<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけはしていない 記録等、個人情報の取り扱いには十分に注意している(利用者本人および家族に対しても同様)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの力に合わせた支援をしている		利用者の状況に応じた支援をしている。認知の進んだ利用者に対しても、希望が汲み取れるよう努力している
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それぞれの希望に応じた支援をしている		個性を尊重し、利用者のペースを大切に支援をしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりの希望に応じて、理容・美容院の利用を支援している		希望に応じて、理容・美容院の理容を支援している。また、本人の望む店に行けるように、家族の協力も得ている
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に炊事を行っている		利用者一人ひとりの力を生かしながら、調理を行っている。また、季節に応じた献立も作成し、楽しんで食事ができるよう工夫している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	全員ではないが、できている人もいる	○	本人の状況を把握しながら、より多くの利用者が嗜好の物を楽しめるよう工夫していく(糖尿病・体重の増減も十分に考えて)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンや習慣に応じた排泄の支援ができています		安易にオムツに頼るのではなく、それぞれの排泄パターンや、習慣を把握し、その人にあった方法で対応している
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望を生かし、夜間浴を行っている		日中だけでなく、夜間不眠傾向の利用者に対して夜間浴を行い、快眠に向けた取り組みも行っている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じ、安心した休息を支援している		睡眠が浅い利用者には、眠る前に夜間浴を行ったりして、安眠に向けての取り組みを行っている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの個性を生かし、役割を持っていただいたりしている。また、季節の外出などを行い楽しみごとの支援もしている		・一人ひとりの個性を生かし役割をもって生活している ・季節ごとの行事・習わしを大切に、季節に合った楽しみを支援している
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない利用者が多い為、お金の管理は職員でおこなっている。が、買い物の支払いの際に、財布を持っていただき利用者にお金を払っていただく、おつりを受け取る作業をしていただき支援している	○	お金の支払いの支援は、一部の利用者しかしていないため、力に応じて他の利用者もできるよう支援していきたい。できない利用者でも、何か他の方法を検討していきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中だけで過ごすことのないようにしている		・不穏の利用者に対しては、散歩や買い物、ドライブなどで気分転換を図っている ・おやつや外食にも、時々出かけている
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力など得ながら、外出の支援をしている		・帰宅願望のある利用者に対して、家族にも協力をお願いし、定期的に自宅へ外出できるよう支援している。結果、帰宅願望の軽減・家族と利用者の信頼関係づくりにつながっている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一度、利用者より直筆の一言手紙を書いていただいている		・毎月、家族に向けた一言手紙を利用者に書いていただいている。文章がうまく書けない利用者には、職員の付き添いで名前だけでも直筆で記入していただいている ・公衆電話を設置しており、自分で電話したい利用者には自由に使ってもらっている
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者と本人がゆっくり安心して過ごせるよう支援している		面会者には、本人とゆっくり過ごしていただけるように工夫している。居室や、談話コーナーなどで過ごしていただいている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる		「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を廊下に貼り、職員が目を通せるようにしている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は、なるべく鍵をかけないように工夫し取り組んでいる		鍵をかけないで過ごせるように対策を話し合い実行している。結果、日中は鍵はほとんどかけずに対応できている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の安全確保の為に取り組んでいる		見守り・気配りなどしっかり行い、利用者の安全確保に努めている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状況に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		・包丁、ハサミなどの刃物は、夜間は鍵のかかるところに保管している ・薬なども、利用者の手の届かないところ、鍵のかかるところに保管している
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの事故防止に向け取り組んでいる		事故報告書・ヒヤリハットを利用し、事故防止に取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や事故発生時の対応法の学習はしているが、応急手当や初期対応の訓練はあまり行われていない	○	急変や事故発生時に備え、定期的に訓練の機会をつくる
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	・定期的に避難訓練を実施している。 ・日ごろより、地域の協力を得られるよう働きかけている		継続して、避難訓練を行っていくようにする
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時など、話し合うようにしている		認知症・ADLの進行にともない、事故の発生が考えられる時は家族と十分に話し合い、圧迫感のない暮らしを提供できるよう対策を検討している
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日ごろから、観察をし体調の変化や異常の早期発見に努めている		観察をすることで、病気の早期発見につとめ、早期に対応できるようにしている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬について目的や副作用について理解するよう努力している		薬の処方の際にいただく説明書を見やすいようにしている。薬が変わった時も、申し送りをしっかり行い職員が熟知できるように対応している
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	安易に便秘薬に頼るのではなく、水分摂取や運動を促したりして防止につとめている。		今後も継続して、薬以外の働きかけを行うようにする
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの力に応じて、口腔内の清潔保持に努めている		一人ひとりの力に応じて、毎食後声がけしたり、見守りにて口腔清掃をしたりしていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	観察を通して、その人の状態を見極め、一人ひとりにあつた対応をしている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防・対応の取り決めがあり、実行している	感染症に対する予防・対応の取り決めをつくり、実行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防に向け取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 調理用具を清潔に保つようになっている 調理の際、手洗いを徹底しておこなっている 食品の管理をしっかりおこなっている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい玄関まわりになるよう工夫している	玄関周りに植木鉢を置き利用者と世話したり、利用者手作りの新聞受けを置いたりして親しみやすい雰囲気づくりにしている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい空間づくりをしている	廊下に、季節感を感じていただけるように花をおいている 利用者がくつろげるようにソファ等を置いて対応している
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とは別に、個別で過ごせる場所を確保している	共用空間に椅子やソファを並べて、個別でゆっくり過ごせるような場所を確保している。利用者だけでなく、面会者にも利用していただいている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの個性にあった居室の環境作りにつとめている		入居時に、本人・家族と相談し、本人の使い慣れた家具を持ちこんでいただき、利用者が居心地良く過ごせるようにしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜に換気をおこない、温度調節に努めている		換気を適宜におこなっている。また、冬期は廊下に数ヶ所加湿器を設置し乾燥しないように努めている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には、きちんと手すりを設置し対応している		廊下やトイレ、浴室など利用者の可動域を考え、適宜な場所に手すりを設置しており自立した生活・事故のない生活が送れるように支援している
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の混乱や失敗を防ぐように環境作りしている		混乱や失敗がないように、廊下や床には余計な物を置かないように気をつけている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏のスペースを利用し、みんなで楽しめるように工夫している		裏のスペースに利用者と一緒に草取りしたり、季節の花を植えたりしみんなで楽しめるよう工夫している

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・回想法を毎日行なっている。
- ・食事等は利用者の方の好みに合わせているので、利用者から好評である。